

平成19年7月4日洪水に係る松原ダム・下笠ダムの洪水調節効果について

【速報推計】

筑後川ダム統合管理事務所では、今回の降雨により松原・下笠ダムにおいて洪水調節を実施しました。その結果、松原ダム・下笠ダムで約3,516千m³を貯留したことで、最大調節時、日田市の小淵地点で約0.5mの水位低減効果を発揮しました。

梅雨前線の影響により、松原ダム、下笠ダム流域では7月3日夜から雨が降り始め、4日18時までの累計雨量は松原ダム周辺流域で165mm、下笠ダム周辺流域で190mmに達しました。

このため、松原ダムでは流入量が700m³/sに達した4日12時56分より洪水調節を開始し、4日13時09分にはピーク流入量761m³/sに対して、56m³/sをダムに貯留し705m³/sを放流しました。また、下笠ダムでは、流入量が350m³/sに達した4日9時24分より洪水調節を開始し、4日11時24分にはピーク流入量795m³/sに対して、449m³/sをダムに貯留し346m³/sを放流しました。これらの操作により、松原・下笠ダムでは約3,516千m³を貯留し、小淵地点での約0.5mの水位逡減効果を行ったと推測しています。

問い合わせ

国土交通省 九州地方整備局

筑後川ダム統合管理事務所

管理課長 田熊 潤司

TEL 0942-39-6651

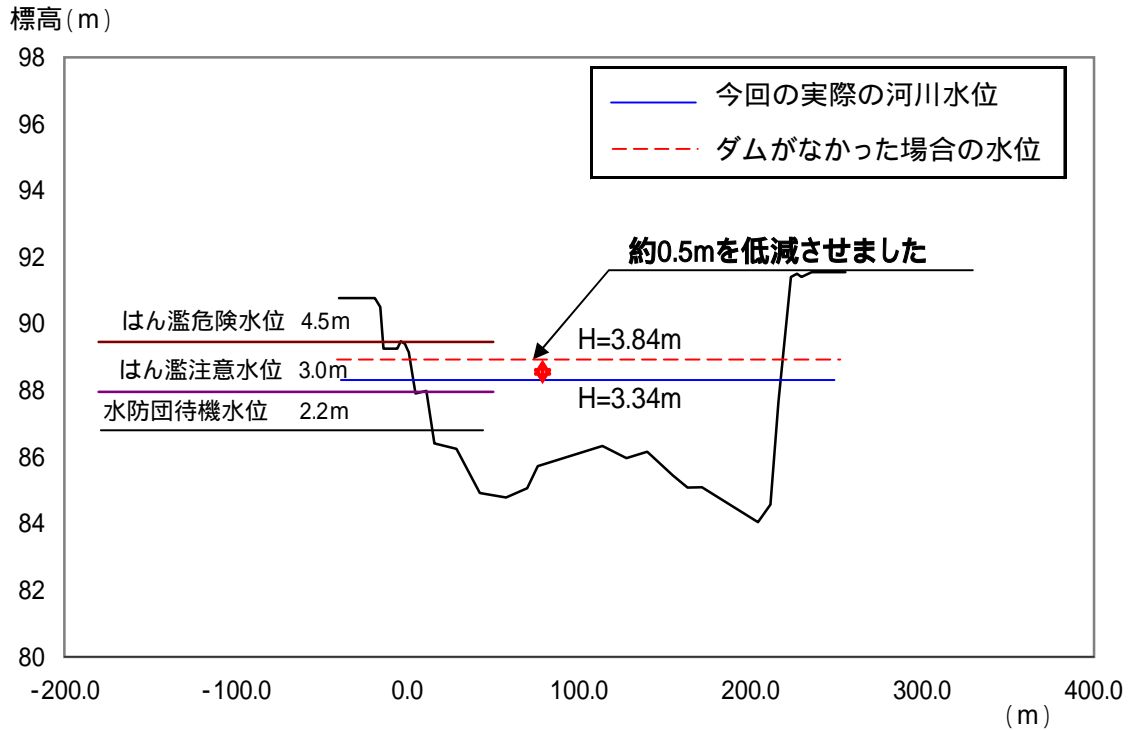
内線 331

1. ダムの最大調節量時における調節効果

1) 日田市小湊地点

ダム最大調節量時における調節効果

松原ダム・下笠ダムによって約0.5mの水位低減効果がありました。



2) 日田市小湊地点平面図

